

子どもの安全対策

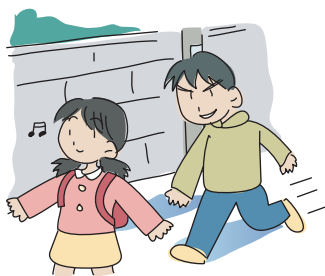
平成30年中の子どもへの「声かけ事案」(*)の発生傾向は、以下のとおりでした。

声かけ事案は大きな犯罪の前ぶれであることが少なくありません。被害を防止するためには、子どもへの指導と大人たちの気配りにより、地域全体で見守りましょう。

※声かけ事案：犯罪行為には至らないが、その前兆と認められる「声をかける」「手を引く」「後をつける」などの事案をいいます。

事案の傾向

- 子どもを狙った「声かけ事案」は、平成30年中、3,280件で前年に比べて38件（1.1%）減少しています。
- 被害者は、小学生と中学生で約77.5%、性別では、女子が約67.2%を占めます。
- 15時から18時台の4時間に約58.5%の事案が集中しています。
- 約76.8%が路上で発生しています。
- 子どもが一人にいるときの発生が約61.5%です。

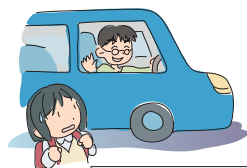


主な手口

- 「欲しいものを買ってあげる」など、金品で誘う。
- 「〇〇はどこにある？」など、道聞きを装う。
- 車両や徒歩で児童・生徒の後をついたり、追いかけたりする。
- デジタルカメラや携帯電話、スマートフォンで容姿を撮影する。

被害を防ぐためには

「いざ」という時にとっさに対応できるよう、子どもに繰り返し指導しましょう。



防犯ブザーをすぐ
に使える状態で持
ち歩きましょう

車からの声かけ

- 車の中から話しかけられても、近づいてはいけません。
- 危ないと思ったら、車の進行方向と逆に逃げましょう。

家族が留守の家での対応

- 家に入る前に、不審な人が周りにいないか確認しましょう。家に誰もいなくても、「ただいま」と言いながら入りましょう。
- 留守番していて訪問者が来たときは、玄関を開ける前に、ドアスコープやインターホンで相手を確認しましょう。知らない人であれば玄関を開けてはいけません。場合によっては、居留守を使います。大人がいないことを知らない人に言ってはいけません。

エレベーター内での対応

- 知らない人と二人だけで乗ったときは、別の階で降りましょう。
- エレベーターホール等に不審な人がいないか周囲を確認しましょう。
- エレベーターは、非常ベルや各階のボタンを押せる位置に乗りましょう。

子ども自身が気をつけること - 4つの約束 -

- ① 一人にならない！
- ② 知らない人について行かない！
*たとえ知っている人でも親や家族に黙ってついて行かないように教えましょう。
- ③ 大きな声で助けを呼ぶ！
- ④ 誰とどこで何時まで遊ぶか家の人に話す！